第7講座 詩・短歌

★印は、単元内容に特に関連する問題です。

■要点のまとめ■

◇詩の鑑賞

(1) 詩の種類（用語と形式）

① 用語　・文語詩…昔の書き言葉（文語）を使って書いた詩。
　　・口語詩…現代の言葉（口語）を使って書いた詩。

② 形式　・定型詩…一定の音数（五七調など）で構成されている詩。
　　・自由詩…音数にとらわれずに、自由な形式で書かれた詩。

(2) 詩の表現技法

① 比喩（たとえ）……あるものを他のものにたとえて印象づける。
　a 直喩…「～のように」などの語を使ってたとえる。
　b 隠喩…「～のように」などの語を使わずにたとえる。
　c 擬人法…人でないものを人にたとえる。

② 倒置法……言葉の順序を逆にして、印象づけ、感動を高める。

③ 体言止め……行末を体言（名詞）で止めることで、余韻を残す。

④ 対句……内容やリズムが対応する行を並べて、調子を整える。

◎表現技法に注意しながら情景をとらえる。また、題名も手がかりにし、作者の感動の中心がどのようなことにあるのかをつかむ。

◇短歌の表現技法

① 句切れ……意味やリズムがいったん切れるところ。

② 枕詞……特定の言葉を導くための、主に五音からなる言葉。

③ その他……倒置法、体言止めもよく用いられる。

◎句切れに注意しながら作者の感動の中心をつかむ。

熟語の組み立て

(1) 次の――線部の漢字の読みをひらがなで書きなさい。

① 神社の境内で遊ぶ。（　　）

② 起伏の激しい土地。（　　）

③ 写真を撮る。（　　）

④ 友人に依頼される。（　　）

⑤ 腰を据える。（　　）

⑥ 優れた能力をもつ。（　　）

(2) 次の二字熟語と同じ組み立てのものを、あとから選びなさい。

① 着手
　ア 抜群　イ 永久
　ウ 貧富　エ 急性

② 早春
　ア 日没　イ 温暖
　ウ 名曲　エ 風雪

③ 進退
　ア 価値　イ 勝敗
　ウ 乗馬　エ 確信

④ 歓喜
　ア 未熟　イ 読書
　ウ 腹痛　エ 思考

⑤ 雷鳴
　ア 知的　イ 市立
　ウ 厳守　エ 乗車

①（　　）　②（　　）
③（　　）　④（　　）
⑤（　　）

1 次の詩を読んで、あとの問いに答えなさい。（1～7は行番号です。）

□　　山村暮鳥

たっぷりと　1
春の河は　2
流れているのか　3
いないのか　4
ういている　5
藁くずのうごくので　6
それとしられる　7

問一　この詩を意味の上から二つのまとまりに分けるとすると、どこで分けられますか。後半の初めの行番号を答えなさい。

（　　）

問二　7行目「それとしられる」は「それとわかる」という意味ですが、「それ」が指す内容を、「～ということがわかる。」に続くように、詩の中から五字以上十字以内で書き抜きなさい。

ということがわかる。

★**問三**　この詩の鑑賞文として適当なものを次のうちから二つ選び、それぞれ記号で答えなさい。

ア　対象のかすかな動きをも見逃さない、作者の観察力のこまやかさが光る。

イ　小さく軽い藁くずとの対照で、河の豊かさを表現している点がみごとである。

ウ　河や藁くずを人間に見立てる表現を用いたことが、この詩を生き生きとさせている。

エ　目に映る風景に自分の心の動きを重ね合わせることで、詩に深みを与えている。

オ　流れていく河に呼びかけることによって、春を迎えた喜びが素直に伝わってくる。

（　　）（　　）

★**問四**　□にあてはまる、この詩の題名として最も適当なものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

ア　急流　　**イ**　ひるさがり
ウ　にぎやかな春　　**エ**　春の河

（　　）

2 次の短歌を読んで、あとの問いに答えなさい。

A　鳴く蟬を手握りもちてその頭をりをり見つつ童走せ来る
　　窪田空穂

B　金色のちひさき鳥のかたちして銀杏ちるなり夕日の岡に
　　与謝野晶子

問一　Aの短歌で、「童」が見ているものは何ですか。「手に」という書き出しで書きなさい。

（　　）

★**問二**　Bの短歌で、「銀杏」はどのようなものにたとえられていますか。短歌の中から書き抜きなさい。

（　　）

練習問題

1 次の詩を読んで、あとの問いに答えなさい。（1～13は行番号です。）

秘密　　千家元麿

子供は眠る時　1
裸になった嬉しさに　2
籠を飛び出した小鳥か　3
魔法の箱を飛び出した王子のように　4
家の中を非常な勢いでかけ廻る。　5
襖でも壁でも何にでも頭でも手でも尻でもぶつけて　6
冷たい空気にじかに触れた嬉しさにかけ廻る　7

母が小さな寝巻をもってうしろから追いかける。　8
裸になると子供は妖精のように痩せている　9
追いつめられて壁の隅に息が絶えたようにひっついている　10
まるで小さく、うしろ向きで　11
母は秘密を見せないように　12
子供をつかまえるとすばやく着物で包んでしまう。　13

★**問一**　この詩の種類として最も適当なものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

ア　文語定型詩　　**イ**　文語自由詩
ウ　口語定型詩　　**エ**　口語自由詩

（　　）

★**問二**　11行目「まるで小さく、うしろ向きで」とありますが、これがかかっていく言葉として最も適当なものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

ア　うしろから追いかける　　**イ**　追いつめられて
ウ　ひっついている　　**エ**　子供をつかまえると

（　　）

★**問三**　この詩の作者が実際に目にした情景をまとめた次の文章の［　］a～cにあてはまる内容が書かれている一行を、それぞれ行番号で答えなさい。

子供は眠る時、裸になって［a］。それを、［b］。そして、母は［c］。

a（　　）
b（　　）
c（　　）

★**問四**　この詩で子供は何にたとえられていますか。すべて一単語で書き抜きなさい。

（　　）

★**問五**　この詩に用いられている表現技法を次のうちから一つ選び、記号で答えなさい。

ア　反復法　　**イ**　倒置法
ウ　対句　　**エ**　呼びかけ

（　　）

★**問六**　この詩で作者が表現したかったこととして最も適当なものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

ア　母と子の間のつながりの深さ。
イ　子供の元気のよさ。
ウ　父親としての自分のふがいなさ。
エ　子供の体と心のかよわさ。

（　　）

2 次の短歌を読んで、あとの問いに答えなさい。

A　たらちねの母がつりたる青がや*1をすがし*2といね*3つたるみたれども
　　長塚節

B　ふるさとの訛なつかし
　停車場の人ごみの中に
　そを聴きにゆく
　　石川啄木

C　白鳥はかなしからずや空の青海のあをにもそまずただよふ
　　若山牧水

D　星寒し木枯らしすさぶ山すそにかたまりあへる七八の家
　　佐佐木信綱

＊1青がや＝青いかや（蚊などの害を防ぐためにつるす布や網）。
＊2すがし＝気持ちがいい。　＊3いねつ＝寝た。

問一　A～Dの短歌の中から、夏をうたったものを一つ選び、記号で答えなさい。　（　　）

★**問二**　A～Dの短歌の中から、次の表現上の特徴にあてはまるものをすべて選び、それぞれ記号で答えなさい。（同じ記号を二回選んでもよい。）

(1)　初句切れ　（　　）　(2)　二句切れ　（　　）

(3)　倒置法　（　　）　(4)　体言止め　（　　）

問三　Bの短歌について、次の(1)・(2)に答えなさい。

(1)　「そを聴きにゆく」とありますが、「そ（それ）」が指すものを短歌の中から書き抜きなさい。　（　　）

★(2)　この短歌から読み取れる作者の心情として最も適当なものを次のうちから選び、記号で答えなさい。　（　　）

ア　群衆の中の孤独。　イ　帰郷した喜び。

ウ　友人との再会への期待。　エ　故郷に寄せる思い。

★**問四**　Cの短歌のように色彩の対照がみられるものを次のうちから一つ選び、記号で答えなさい。　（　　）

ア　向日葵は金の油を身にあびてゆらりと高し日のちひささよ
　　前田夕暮

イ　街をゆき子供の傍を通る時蜜柑の香せり冬がまた来る
　　木下利玄

ウ　草わかば色鉛筆の赤き粉のちるがいとしく寝て削るなり
　　北原白秋

エ　おり立ちて今朝の寒さを驚きぬ露しとしとと柿の落葉深く
　　伊藤左千夫

★**問五**　Dの短歌を説明した次の文の［　　］a～cにあてはまる言葉を短歌の中からそれぞれ書き抜きなさい。

この短歌は、寒々とした星空の下、［a］が吹き荒れる夜に、身を寄せあうように［b］に七、八軒の［c］が建っている情景をうたっている。

a（　　）　b（　　）　c（　　）